



発行所
 一般財団法人
 広島県動員学徒等犠牲者の会
 事務局
 広島市南区比治山本町12-2
 広島県社会福祉会館内
 〒732-0816 電話 (082) 252-0316
 印刷所 Taisei
 デジタルブック
 “慟哭の証言”
<http://www.douingakuto.com/>

コロナとともに

理事長 本地 正治

月日がたつのは早いもので、令和3年も半年が過ぎました。また、国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が報告されてから、1年半が過ぎようとしています。

会員の皆さんにおかれましては、コロナに感染しないように日々注意を払うことで、気の休まるときのない、お疲れの長い1年半ではなかったでしょうか。

コロナ感染禍から、1日でも早く日常を取り戻す最有力な手段は、ワクチン接種だと言われ、現在は、国を挙げて、接種のスピードアップが図られているところです。本号をお読みの会員の皆様方におかれましては、多くの方々が1回又は2回のワクチン接種を済まされていると思いますが、ワクチン接種が国民のほとんどに行き渡るまでには、当分の間を要するようです。もうしばらくは、淡々と個人レベルでの感染防止策に努めるしかありませんね。

コロナ禍の中、当会でも行事を行う時には、次のような感染防止策をとっています。

- ・ 体調の悪い人は自主的に行事に参加しない。
- ・ 参加時には、全員がマスクを常時着用する。
- ・ 毎月1回の西向寺での供養読経については、本堂への出入の際には手のアルコール消毒を励行し、できるだけ距離を取って着席し、読経の発声はご任職のみとし、参列している会員は黙読し心の中で唱える。また、本堂の南北の窓を開放して適度な換気を行う。
- ・ 非常事態宣言下では、行事は清掃のみとし、公共の交通機関利用者は参加しない。また、集合して行う会議は文書を郵送して行う。

当分の間は、引き続きこのような感染防止策を徹底することにします。

原爆死没者追悼式について

本年も八月六日が近づいて参りました。

一方、新型コロナウイルスの感染については「緊急事態宣言」は解除されましたが、依然として予断を許さない状況であることから、追悼式は自由参拝とし、昨年同様、式典は行わないことといたします。

以上、ご案内申し上げます。

今年は、5月のひろしまフラワーフェスティバルが2年ぶりに開催され、この祭典のテーマソングである「花ぐるま」が、シンガー!ソングライターの Dresssing さん他多くの歌手により、朗らかに歌われました。

♪花が輪になる 輪が花になる
 まわれ輪になれ まわる地球は
 花ぐるま

平和を謳う花の祭典にふさわしく、軽快で夢と微笑みを与えてくれる曲です。

ライブ配信で、5月の青空に明るく爽やかに響き渡るこの曲を聴いて、コロナ禍の中、笑顔と元気をもらった方が沢山おられたのではないのでしょうか。



清掃の様様

活動の様子 令和3年3月

目次

コロナとともに (理事長)	1
原爆死没者追悼式について	1
活動の様子 (写真)	1~2
ごあいさつ・お世話になる方々	2
令和2年度事業報告・収支決算	3~4
関千枝子さんを偲んで	5
アンケート回答	5~6
動員学徒をしのぶ座談会(その2)	6~8
令和3年度行事予定表	8
ご寄付のお礼	8
あとがき	8



西向寺本堂での会議



西向寺本堂での読経



西向寺本堂でのミーティング

ごあいさつ

広島市健康福祉局保健部保険年金課
福祉医療担当課長 金谷 淳子



広島県動員学徒等犠牲者の会の皆様におかれましては、日頃から本市行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

この度、健康福祉局保健部保険年金課福祉医療担当課長に就任し、援護行政に携わることとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

先の大戦において負傷され、あるいは最愛の御家族を亡くされた会員の皆様におかれましては、長きにわたり、肉体的にも精神的にも大きな苦痛に耐えてこられました。その痛みはいかばかりかと拝察申し上げます。

戦後七十五年を過ぎ、当時を知る方々の高齢化も進み、記憶の風化が懸念されますが、今日のわが国の平和と繁栄の礎は数多くの動員学徒や女子挺身隊員の方々の尊い犠牲により築き上げられたものであり、そのことを私たちは決して忘れてはなりません。

さて、本市では昨年、新たな広島市総合計画を策定し「国際平和文化都市」の実現に向けて、「世界に輝く平和のまち」、「国際的に開かれた活力あるまち」、「文化が息づき豊かな

人間性を育むまち」という三つの視点に沿って着実にまちづくりを進めていきたいと考えています。

中でも「世界に輝く平和のまち」づくりにおいては、世界で最初に被爆し、廃墟から立ち直った都市として、世界の都市や市民社会などと連携しながら、「平和への願い」を世界中に広げるまちづくりに取り組んでいくこととしております。

戦後の復興・成長を支え、このまちを築き上げてこられた先人の努力を受け継ぎ、全力で取り組んでまいりますので、皆様には、引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、貴会の益々の御発展と、皆様の御健勝・御多幸を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。



お世話になる方々

広島県

健康福祉局長 木下 栄作
社会援護課長 辻 和夫
援護恩給グループ

主査 山口 博幸
主査 岩井 明子
主査 舩石 幸恵
主任 泉岡 幹雄
主任 熊田 雄

援護恩給グループ
電話 0821513-3036

広島市

健康福祉局長 山本 直樹
健康福祉局保健医療担当局長 阪谷 幸春

健康福祉局保健部医務監 宮城 昌治
健康福祉局保健部保険年金課長 齋藤 憲治

健康福祉局保健部保険年金課 齋藤 憲治

健康福祉局保健部保険年金課 齋藤 憲治

福祉医療担当課長 金谷 淳子
健康福祉局保健部保険年金課課長補佐 (事) 管理係長 名桑 数美

健康福祉局保健部保険年金課主事 玉浦 遥

電話 0821504-2159

健康福祉局原爆被害対策部 調査課事務指導員

(慰霊等事業補助金担当)

電話 0821504-2191 山本 勝彦

令和2年度事業報告書

- 1 広報活動の実施
 - (1) 原爆死没者追悼式の案内
会報「ともしび第132号」の送付に合わせ追悼式の案内を送付したが、コロナウィルス蔓延により式典を急遽中止することとし全会員に葉書連絡した。
 - (2) 会報「ともしび」の印刷・配布
・令和2年6月30日付け第132号 1,000部
・令和2年11月30日付け第133号 950部
 - (3) ホームページの運用
ア 会報「ともしび」の掲載132号・133号
イ アクセス数(令和3.3.31) 7,918件(2年度アクセス数893件)
 - (4) 「慟哭の証言」等を関係機関等に配布
慰霊塔に千羽鶴を献納していただいた学校等へ冊子「慟哭の証言」等を送付した。
 - (5) 慰霊塔説明文の設置
慰霊塔の説明文を常時設置し、参拝者の理解の一助にした。(1万部配布)
 - (6) 動員学徒等の顕彰と会の設立趣旨の広報
慰霊塔の清掃日等を利用して、随時、参拝者に対して原爆、空

襲、動員学徒等犠牲者の状況等について説明した。

- 2 第64回原爆死没者追悼式の挙行
日 令和2年8月6日(木) 午前8時から
場 所 動員学徒慰霊塔前広場
実施内容 新型コロナウィルス蔓延のため式典は中止とした。献花・テントを設置し、原爆投下時刻には役員による黙祷を実施し、会員は自由参拝とした。
また、死没者名簿の閲覧対応を行った。閲覧希望者数は26件であった。(昨年度20件)
- 3 動員学徒慰霊塔の清掃・供花・英霊供養

月 日	参加者数	供養会(西向寺)
4月6日	16人	○
4月20日	12人	
5月1日	中止	
5月7日	11人	1
5月22日	16人	
6月10日	19人	○
6月22日	16人	
7月6日	17人	○
7月20日	16人	
8月5日	18人	○
8月20日	15人	
9月9日	16人	○
9月18日	13人	

開催日	内 容
2.4.6	理事会 議案第1号 令和元年度収支予算の補正に関する件
2.4.20	監事会 令和元年度決算関係監査 理事会(書面決議) 議案第1号 令和元年度事業報告に関する件
2.5.7	議案第2号 令和元年度決算の承認に関する件 議案第3号 定時評議員会の招集の決定に関する件
2.5.22	議案第4号 理事、監事及び評議員の選任に関する件 定時評議員会(書面決議)

合計22回延338人参加(昨年度382人) 役員会等の開催

10月7日	18人	○
10月21日	15人	
11月9日	16人	○
12月7日	16人	○
12月18日	14人	
1月6日	15人	1
2月10日	18人	1
3月11日	21人	○
3月24日	20人	

- 5 研修会の実施
取りやめとした。
- 6 その他
(1) 慰霊塔の修繕及び周辺の環境整備

2.5.22	理事会 理事長及び副理事長の選定の件
2.7.20	理事会 原爆死没者追悼式の実施打合せ
2.9.9	原爆死没者追悼式反省会
3.3.24	理事会・評議員会 議案第1号 令和2年度収支予算の補正に関する件 議案第2号 令和3年度事業計画に関する件 議案第3号 令和3年度収支予算に関する件

- (2) 谷口了子副理事長が厚生労働大臣表彰を受賞(令2.12.10)
- (3) 会員数 740人

年月	工事名	工事内容	備考
2年	慰霊塔補修	慰霊塔に発生したひび割れの補修	本会実施
7月			

令和2年度 収支決算書（正味財産増減計算書）

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度A	前年度B	増減A-B	増減理由
I 経常利益経常費用				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
事業収益				
追悼式典事業収益	137,000	346,500	△209,500	
受取補助金等				
地方公共団体補助金	397,000	552,000	△155,000	
受取寄付金				
受取寄付金	271,000	100,500	170,500	
雑収益				
受取利息	49,052	52,029	△2,977	
雑収益	396,637	880,199	△483,562	
経常収益計	1,250,689	1,931,228	△680,539	
(2) 経常費用				
事業費				
会議費	0	0	0	
旅費交通費	217,300	299,600	△82,300	
通信運搬費	281,607	213,979	67,628	
消耗品費	187,577	229,804	△42,227	
修繕費	77,660	990,000	△912,340	
印刷製本費	187,710	264,718	△77,008	
光熱水費	42,562	36,175	6,387	
保険料	8,500	8,500	0	
委託費	130,000	394,000	△264,000	式典縮小
賃借料	4,600	0	4,600	
諸謝金	800,000	800,000	0	
支払負担金	120,000	105,144	14,856	
雑費	104,500	164,812	△60,312	
事業費計	2,162,016	3,506,732	△1,344,716	
管理費				
会議費	0	0	0	
旅費交通費	129,000	69,000	60,000	
通信運搬費	99,077	85,851	13,226	
消耗品費	24,367	49,012	△24,645	
印刷製本費	30,414	4,802	25,612	
光熱水費	0	0	0	
賃借料	0	0	0	
諸謝金	160,000	240,000	△80,000	
公租公課	21,000	21,000	0	
支払負担金	289,568	300,000	△10,432	
雑費	112,013	260,616	△148,603	
管理費計	865,439	1,030,281	△164,842	
経常費用計	3,027,455	4,537,013	△1,509,558	
当期経常増減額	△1,776,766	△2,605,785	829,019	
2 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	

関千枝子さんを 偲んで

村 興 久美子

今年の2月21日、関千枝子さんがお亡くなりになりました。

広島県立第二高等学校2年だった13歳の時に、広島市内で被爆された関千枝子さん。ご自身は体調不良で休まれていたものの、爆心地から1.1kmの雑魚場町（現中区）での建物疎開作業に出ていた多くの級友が原爆で亡くなり、その後約30年経った時、一人一人の遺族を探し出して取材し、約10年の歳月を費やして、1985年に、あの日の級友の足取りと最期を克明に追った「広島第二県女二年西組」を発刊されました。そこには、私の叔母（母の妹清子）の事も書かれています。

私が関千枝子さんに初めてお会いすることが出来たのは5年前、2016年8月6日のことでした。

YWCAの主催されるフィールドワークに出発される直前の関さんに『突然にすみません。私は第二県女2年西組だった石川清子の姪です』と申し上げると『あらあ、そうですか！』と名刺を差し出され、懐かしそうに亡き叔母の事を色々話してくださいました。

2018年8月6日、『書き、語り、怒りを持ち続けること』講演会。ぜひ関さんに会いたいという叔母（清子

の妹）を連れて参加しました。講演終了後に叔母は、関さんと直接お話しすることが出来て本当に喜んでいました。関さんも帰りの車の中で『まさか石川さんの妹さんにお会いできるなんてねえ。良かったです。』と何度も仰っていたそうです。

2019年8月7日、講演会終了後、広島駅までお送りした時、『何時の新幹線ですか？』とお聞きすると、『切符はとってないの。だから、来たのに乗りますから。広島から一人だとね、どこでも座れるんですよ。』と言われ、カートと手提げ袋にリュックを背負って、さっそうと改札口へと向かわれた87歳の逞しい関さんでした。

2020年8月6日、新型コロナウイルス禍の中、『二年西組』の朗読劇をされている大阪の劇団員の方々と一緒に広島に來られていた関さん。動員学徒慰霊塔の前で、当初初代会長の寺前妙子さんと『お久しぶりですね。お互い100歳まで元気でがんばりましょうね！』と握手を交わしていらっしやいました。90歳の寺前妙子さんと88歳の関千枝子さん…このお二人のような方々のおかげで、76年前のあの日の事、核兵器の本当の恐ろしさやを伝えることが出来、今の広島があるのだなと思つて胸が熱くなりました。

亡くなられる数日前まで現役のジャーナリストでいらつした関千枝子さん、大きな感謝とともに慎んでご冥福をお祈りいたします。

令和2年度に役員を退任された方にアンケートをお願いしました。回答をいただきましたので掲載させていただきます。
退任された方には、長期間にわたる活動に感謝申し上げます。

アンケート回答

日和 隼 巳

○最近、いかがお過ごしですか？
年齢相応に元氣と自覚しており、自治会活動、老人健康体操参加、その他奉仕活動と地元で色々使つて頂き、感謝の日々を過ごさせて頂いております。

しかし、コロナでは感染拡大防止が重要であり、特に私は高齢に加えて肺炎入院歴も抱えており感染し易く、更にこれが他人様に感染させる迷惑を考えると、自分なりの対策も必要です。

○「被爆」に関する思い出は？（原爆に関する思いは？）
私自身は被爆しておりませんが、昔職場において、よく被爆体験を聴き、その悲惨さに身震いしたものです。叔父が被爆死し、残つた家族の苦勞を見てきました。

○何がきっかけで当会へ入会されたのですか？
平成17年、当時の土井理事長からお誘いを受け、事務局を経て評議員

でお世話になりました。

○入会後の活動で、印象的だったこと、ご苦労されたことは？
事務局では、皆様のご協力で円滑に進められました。印象に残っている事は、冊子「慟哭の証言」の発行と全国の関係機関、県内関係先と小中高校への配布事務、財団法人から一般財団法人への移行事務です。

○今後の会（の活動）への希望は？
今後共、単独法人として活動できるのが最良と考えます。

しかし、会員の高齢化で弱体化は免れず、運営安定のための選択が必要となると思います。会員の若返りを図り単独運営を進めるか、関係団体との連携で法人強化を図るか、今後、本会の方向づけの検討が必要になると思います。

○コロナ感染状況について、なにかご意見があればお願いします。
コロナ感染防止の明確な方策が樹つていない現在、感染防止に役立つと思われる事を国民全員が取り組むことだと思います。

私の場合、高齢に加えて肺炎等大病歴を抱えて感染しやすい類に入つております。自分だけの感染で済めば深刻にはなりません。他人様には時間がかかって感染が判明するという厄介者ですから大変です。清掃等奉仕活動へ参加したい気持ち

はありますが、JRを利用しなければならず、落ち着くまでは動けないと思っています。

動員学徒をしのぶ 座談会(その二)

動員学徒慰霊塔が昭和42年7月に完成し、昭和43年3月には動員学徒誌が刊行されました。このことを機に、「動員学徒をしのぶ座談会」が開催されました。

会報の前号から引き続き、座談会の模様を掲載します。(昭和43年3月30日発行「動員学徒誌」から原文のまま転載しました。)

柿原蓉子(旧姓正田)

私は女学校(広島女子商業学校)一年生の時家屋疎開の後始末の作業中に原爆にあい、幸か不幸か生き残った一人であります。先日、七月十五日の慰霊塔の除幕式に出席して当時の悲惨な状況をまざまざと思い浮かべて感無量なるものがありました。ご遺族の方々のお悲しみは、如何ばかりであったことか、私たちは、あの朝元氣に出動したのに、なぜあのようなめに会わなければならなかったのかと、改めて怒りがこみあげてまいりました。多くの学友が死没されたのに、私一人が生き残っているのは相済みない気がして思わず涙を

呑みました。

あの後私は八カ月床に臥したまま、一步も歩けず医師からも見放されましたが、翌年五月にやっと復学できる身になり、卒業後は社会の一員として働いてまいりました。学友の皆さんの冥福を祈るばかりです。
司会者

田中さんや正本さんは当時動員学徒の一員として、軍需工場で汗を流し、脂にまみれて働かれた二人であります。当時を思い出して心に感じられること二人と思いますが。

田中勝義

私は、当時広島県立忠海中学校四年生で、呉市の対岸にある佐伯郡大柿町の第十一空敵に動員されました。戦は正に苛烈を加え、呉軍港や呉海軍工廠が空襲を受けるさ中でありました。航空機を造ることが第一義であったので、私たちも実に張り切つてやつたものです。四交代制で勤務し、大豆や芋飯で空腹を訴えることもしばしばでありましたが、いや「勝つまでは」と互いにはげまして合つてハンマーを振つたものです。一般工員や徴用工達は、やや疲労し、けんたいを来たしていたものです。従つて仕事の能率は上がらなかつたが、学徒は若い意氣と学徒としてのプライドを持つて率先して任務を遂行したものです。そこで工員達も、学徒に学べ、学徒に続けということが合言葉でありました。

空襲があれば、軍属等は一番に防

空壕にもぐり込む有様でしたが、学徒は最後に壕に入ったものです。

戦いは刻々と苦況に立ちました。最後の勝利は吾々にありと信じ、勤務は楽しかったものでありました。従つて八月十五日の終戦の詔勅を聞いた時は、只うなだれて一同言葉もありませんでした。

私達は全く学業は放棄したので学力は低下しましたが、戦時中の体験は一生のうちで何より尊い教訓であると思ひます。

祖国の発展、世界の平和のためには吾々が体験したあの氣魄でありたいものと思ひます。

正本良忠

私は当時広島高等師範学校附属中学校一年生で、六月頃までは広島市内建物疎開作業に従事し、七月に入り賀茂郡原村の食糧増産協力に動員されました。原村ではお宮とお寺に分宿して、田の草取等に汗を流したものです。私の学校では二年以上四年生は軍需工場に動員され、五年生有志は予科練生となったものです。

広島の前爆の時は私の友人県一中、県二中、県商、市工生等は市内建物疎開作業に従事したため殆んど全員死没しました。私の長兄は一六才で九州築城の航空隊に、次兄は一四才で宮島の包浦火薬工場に何れも学徒動員として勤務中でありました。

家では父が原爆のため死没し苦が

い体験をなめました。

当時私たちは広島市内から郡部に移つていたので一命を拾いましたので学友のことを思うと、断腸の思いがいたします。今日でも同窓会を開く度毎に亡き学友のため、その冥福を祈る黙禱を捧げて開会するのが例になっています。

当時学徒は学業をなげうち、動員作業に従事したのでありますが、幼き心にもみ国の安泰を希つて勤労に従事して、不平常心は露程もありませんでした。私達は動員学徒の尊い犠牲に対し敬虔の念をもって、その冥福を祈ると共に、その精神を継承して平和な世の中を作りあげたいものと考えます。

司会者

広島県ではいちばん早く空襲を受けたのは海軍根拠地の呉市でした。米機が編隊で襲つた時は、広島から見ているとまるで蜂の巣をつついたようでしたが、判田さんは呉市におられたようですが当時の状況は如何でしたか

判田勇

私は終戦時まで呉市広町の第十一海軍航空廠に勤務していました。海軍工作庁でも優秀な飛行機を作る工場でした。昭和二十年頃になって熟練工の多くは応召しあとは兵役に無関係な少数の熟練工と見習工、徴用工、動員学徒、女子挺身隊等が必死で海軍機の製作に努力していました。

そのような状況下にあつて、三月十九日、艦上攻撃機第一回の空襲を受けましたので、工場疎開も一層急を要し従業員の毎日は多忙を極めました。更に五月五日には、B29の大空襲を受け大きな被害を蒙りました。その様子を少し述べますと、私

が他の事務所にいるとき空襲警報に入ったので自転車で大急ぎ自室に戻る途中、中学四、五年生約八十名が空襲も知らぬげに二列従隊で歩いているのです。地方の学校から動員で来たものらしい。この時すでに七、八千メートルの高度に敵機の銀影が認められ、私は思わず「オーイ、引率者は誰か、あれは敵機だぞ、百メートル前方左側に防空壕がある、馳足進め」と号令式に怒鳴ると、先頭から駆け出したので、私は一応自室に帰り、所定の防空壕へ入ったのです。

失して、ただコンクリート建の残骸にすぎませんでした。

司会者

川本さんは当日消防隊員として家庭を見る暇もなくひたすら公務に従事された一人ですが、当日の状況は。

川本富作

原子爆弾が投下され二十万人を越える尊い人命を奪れたのですが、中でも、子供や年老いた人たちが爆死し、無残のきわみでした。当時、市民は誰も原子爆弾とは知らず、あれが空中爆雷だとか、ガスホルダーに爆弾を落としたのだとか言っていました。当日私は市消防隊の部員で皆実町分隊に勤め、たまたま午前八時の交代で望楼勤務につくと警戒警報の交代で望楼勤務につくと警戒警報が聞こえだすと、階下の勤務者から「敵機が友軍機がよく見張りをせよ」との指令を受けました。まもなく西方に火花のような光を見たのを今でもハッキリ覚えております。

あつと思つたその瞬間、右顔面に熱さを感じ爆風で身体はよろめき、戦闘帽は吹飛び、望楼は足下から崩れ落ち、それと共に私も四階から落下したので、すでに死を覚悟していました。幸い途中身体をつきさす事もなかったのです。土煙の中を見れば階下の人は机等の支えで異状なく、その一人から川本君顔が血まみれだと声をかけられました。驚いて近くの病院をたずね手当てを受け

ました。八月の事とて誰も半袖シャツ、半ズボン。その人たちが病院に押しよせてゴツタ返しました。私の前に立った人も顔面、腹、足が大火傷で治療も何もできぬありさま。病院はまた窓硝子の破片で足も踏めないのです。私は幸い制服だったので顔だけの火傷でしたが、白いうどん粉のような薬をもらって自分で塗り、出張署に帰って見れば、専売局方面から川向う東千田町、鷹ノ橋方面が火災につつまれていました。折から宇品分隊が掛けつけたので皆実町分隊はそれに合流して、専売局方面の消火に行つたのですが、われわれ二三の負傷者は留守部隊として守備にあたりました。

妻は家屋の下敷となつて死亡。長女は広島市立高女の先生十名、学友六百六十九名と運命を共にし、全く涙新たなものを覚えます。

司会者

三ヶ本さんあなたはお二人の子供さんを亡くされた気の毒な方であり、仏の道を教えられるお寺さんであります。特別のご感想もあるかと思ひますが……。

三ヶ本義映

幾多の春秋を残して戦争の犠牲になつた子供の親として、等しくただ可愛そうで、こんな戦争がなかったらと、恨の数々をくりかえしているが、私は因果自然の道理を聞かせて頂いて居りますので、悲しみの中にも一つの信念に生きております。

二人の子供を亡くした一時の悲しみは痛烈でしたが他に目を転ずると、あの戦争のために余りにも大きな犠牲が払われている事です。子供を戦場に失つた老先短い父母、夫や父を亡くした母と子、それら数々の人たちこの事を思う時、自分一人が悔やんでばかりいてはならぬ、大体人生の出来事は因果の道理から納得すべきである。ああした時代に生まれ、ああした戦争によつて死んでいかねばならぬことは、子供それ自身の宿業であり、親の立場から言うところ、ああした事縁によつて可愛い子供を亡くして悲しまねばならぬ縁は親自身の手持つて生れた宿業で、他を恨むのは間違ひであることに気づかねばならぬことです。

責任を言えば日本人共同の責任、いや人類共同の責任と考うべきでしょう。「あやまちは再びくりかえしません」。戦争放棄の一念が一番よくその責任のことを物語っています。今後国民は平和建設のためにあらゆる努力を惜しまず、これ一筋に進んで平和世界を実現することが、亡き子供たちの死を大死にさせないことではないでしょうか。

終戦直後、山口県大島郡白木のお寺へ僧侶姿でこられ「私は今道心です。自分は広島二中の一年生受持の教員をしていましたが、一時に三百人も子供を死なせたのでこれからは教員をやめて子供たちの菩提を弔つてやらねばなりません。」と言われた

方がありました。何という尊い姿を拝見したことでしょう。残念なことにもその方のお名前を覚えておりません。相すまなく思っています。が今どうして居られるでしょうか。

司会者
大橋さん、あなたは、お医者さんですが……。

大橋年見
昭和二十年八月六日の惨禍は、今なお彷彿として眼に浮び戦慄を覚えずにはおれません。

A B C Cの調査により、被爆者は死亡率の高さを示しており、若年で被爆したものは高年で被爆したものに比べ死亡率がうんと高く、また白血病は確かに増加して、致命的症状でもありますが、被爆者は白血病をおこし得る他の原因には職業人としても、公害環境においても近寄らない方がよいのです。放射線被害によって甲状腺癌が発生し得る事は事実であり、その他放射線によつて水晶体に混濁がおこり得る事は事実で胎児の出生後頭圍が小さく知能遅延を伴うものもあることも分かつており、爆心地からの距離的分布からみて放射線被害に基因して小頭症が発生しうることは事実であります。以上恐るべき原爆症に犯され臥床療養に専念しておられる方々のご心中は、お察しするに忍びないものがあります。これをよき教訓として再びかかる悲劇の起らぬように祈念してやみません。(次号へ続く)

令和3年度 行事予定表

一般財団法人広島県動員学徒等犠牲者の会

年	月	日	曜	清掃後読経	月	日	曜	清掃 (行事がないときは解散)
令和3年	4	5	月		4	21	水	監事会(県社会福祉会館)
					4	30	金	
	5	6	木	理事会(西向寺) (令和2年度事業報告・決算の承認)	5	20	木	定時評議員会(西向寺) (令和2年度事業報告・決算の承認)
	6	7	月		6	21	月	
	7	7	水	追悼式打ち合せ会(役割分担等) 会報「ともしび」封筒入れ(西向寺)	7	21	水	
	8	5	木	供養会	8	20	金	
		6	金	第65回原爆死没者追悼式				
	9	8	水	追悼式反省会(西向寺)	9	22	水	
	10	6	水		10	20	水	
	11	8	月					
12	6	月	会報「ともしび」封筒入れ(西向寺)	12	17	金	研修会(西向寺)	
令和4年	1	6	木					
	2	7	月					
	3	7	月		3	23	水	理事会・臨時評議員会(西向寺) (令和4年度事業計画・予算承認)

- (注) 1 慰霊塔付近の清掃は、午前9時30分からです。雨天の場合も実施します。
 2 左欄は、慰霊塔付近の清掃後「西向寺」で読経。
 右欄は、行事がないときは清掃後解散。
 なお、「西向寺」様の都合によって、日程変更する場合があります。



令和2年11月から令和3年5月までに、次の皆様から貴重なご寄付をいただきました。ご厚志、誠にありがとうございます。

國本悦郎様
能美直哉様

ご寄付いただく際には、左記の口座へお振り込みください。
 ゆうちょ銀行
 振替口座 013000618858
 一般財団法人 広島県動員学徒等犠牲者の会

あ と が き

ちよつと気が早いかもしれませんが、プロ野球セ・リーグの今年の新人王は誰になるのか、とても気になります。昨年は、赤ヘル森下投手が獲得しています。今年も、デビューからの連続試合無失点記録を塗り替えた栗林投手が獲得してくれることを、赤ヘルファンは待ち望んでいます。栗林投手がランナーを出した時に見せる、懸命に踏ん張っている顔、一挙一投足に、皆さまもハラハラドキドキ、毎回手に汗握って、熱い声援を送り、最後の打者を打ち取った瞬間、拳を突き上げて「ヤッター!!!」と何度大歓声を上げたことでしょうか。頑張れ! 栗林!

(本地正治)